# 多様な役割を担う看護師常勤医師のいない島、

粟島へき地出張診療所看護師長

惣充

# 常勤医師が不在の粟島

と釜谷の二カ所で、産業は漁業と観光業が中心。島内には、栗島浦村という一つの自治体を形成している。集落は内浦 栗島へき地出張診療所での、患者さんとのありふれた会話 三人となっている。 する子どもたちは中学校卒業と同時に島を離れる。 保育園が一 の皆さんから魚や野菜などをいただくことも日常的だ。 診 一コマである。 一今日は何の魚が獲れたの?」「タイがたくさん獲れた」。 新潟県北部にある粟島は、 療所ではあるが、 の医療機関が、 園、 小中学校が一校あるが、高校はなく、 この島では道を歩いているだけで、 施設名にある 常勤の 粟島へき地出 人口約三四〇人の小さな島で、 医師はおらず、 <sup>\*</sup>出張診療、とは、 張診療所である。 常勤は看護師 島内には、 対岸 住民 進学 の島

> して、 間の 消化器内科、 現在は週に二~四回、 遠隔診療 に来て診療を行なうことである。 的に診察を行なっていただくこともある。 療に携わる。 本格的に運用が開始された。 の村上市にある村上総合病院を主とした本土側 テレビ診療は、 H 村上総合病院の医師とテレビ診療を行なっている。 曜日に実施され、それ以外はテレビ電話を利 (通称:テレビ診療) これらの医師には専門科以外であっても総合 産婦人科を加えた五科目の医師が定期的に診 平成一三年四月から脳外科と腎臓内科で 診療所にある専用の通信機器を使用 が住民の健康を支えている。 現在では、 出張診療は、 これに循環器内科 七~八月の 0) 医師 用した が

# 看護師が担うさまざまな役割

コロナ禍を機に増加した遠隔診療をイメージする際、医

浮かべる方が多いと思われるが、 な情報を提供している。 呼吸状態、 師と患者がオンライン上で対面して診察を行なう形を思 (患者側)に看護師 足のむくみなどを客観的に観察し、 が加わる。 看護師が患者の 粟島のテレビ診療ではそ 医師 Ĺ 圧や脈拍、 へ的確

ンザ検査などは、 心電図 血糖值測定、 粟島で実施することができる。 新型コ ロナ抗原検査、 1 定期的な ・ンフル 工

> CR検査は、 病院 採 間に合わせて検体を採って送付する。 やテレビ診療以外の診療科を受診する際は本土まで行く必 血 へ送付 は、 週に一 村 上市 検査結果を受け取っている。 度設けられている採血 の保健所と調整の上、 ただし、 日に検体を村 定期船の 新 詳しい 型コ 出航時 上総 口 検査 ーナ P

このほかアナフィラキシー 息の急な症状悪化、 (重度のアレルギー反応) 熱中症など、 Þ 療

すぐに治

要がある。

る。 などの指示を仰ぎながら看護師が処置にあ が必要な場合は医師に連絡をして点滴や吸入

た

週に一 いる。 も看護師が行なっている。 事務職員もいない 行なうのも看護師の役割である。 処方は院内処方と院外処方があり、 度、 薬剤師がいないため、処方薬の説明を 本土からまとめて送ってもらっ ため、レセプト また、 (医療事 後者は 医 療 7

週 療 .大学予防歯科の歯科医師と歯科衛生士が毎 0 歯科については、 回来島 予約枠は常に埋まっている状態である。 Ļ 診療にあたっている。 <u>=</u> 5 月までの 歯科治 間



き地出張診療所の外観

### ■粟島の医療・福祉関係従事者の常勤・非常勤の別

粟島に常勤している職種	粟島に常勤していない職種
看護師 介護支援専門員 介護福祉士	医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、管理栄養士、リハビリ職(理学療法士、作業療法士,言語療法士)、臨床検査技師、レントゲン技師、救急救命士、歯科衛生士、医療事務職員、社会福祉士、精神保健福祉士、消防救急隊員ほか

### じい 環境にある急患対応

厳

心筋梗塞や脳卒中、 急性腹 症 重篤な外

もとへ駆けつけ、 など緊急の搬送方法は、 認して医師へ伝える。 は、 「胸が苦しい」などの連絡を受けるとすぐに患者 心筋梗塞を疑い、 粟島と本土で大きく異なる。 速やかに患者の状態を 看 0) 護

が 役場職員が対応することもある。 急車仕様の搬送車で患者の自宅、 び出されるかわからない環境に置か る限りお盆も正月もなく、 る 海水浴場などに駆けつけ対応にあたる。 0 一護師に加えて、 増える夏休みは、 島に消防署はなく、救急隊員もいない。 が看 護師であり村役場職 救急救命や患者搬送方法の研修を受けた 呼び出 二四 しの件数も増加 (員である。 時間三六五日 旅行者の宿泊先、 れている。 看護師 急患発生時には、 その代 1体制 その度に救 特に観光客 ば、 で わりとな 路上や 島にい 11 つ呼

後者は二時間半ほどの搬送時間を要する。 または臨時船) 役場職員を複数名集める必要があり、 てしまっている。 Ó の場合、 から本土への搬送方法は、 島 周囲の安全確保や消防署とのやりとり の二択である。 |から病院まで二〇分ほどで搬送できるが、 前者は四〇分~一時間ほど、 ヘリコプター 余計な時間がかか ヘリコプター か船 などの (定期 た 利 船

ター

会社など) 人と家族への説明、 護師は、 また、 や搬送先の病院との連絡調整なども行なう。 患者の状態を本土の 搬送 電話連絡、 の手配 (本土の消防署、 点滴、 医師へ報告し、 心電図検査、 船 での 搬送時は船 応急処置 カル テ 本

あ

進み、 き添うことも に看護師が付 よっては搬送 で慌ただしく べて同時 た作業が 0) 記 容態に 録 進 کے

せず、 けれ れる。 送は、 ればヘリコプ 視界不良であ 大きく左右さ ば船は出 からの搬 強風 波が高 天候に P



ある。

診療所でのテレビ診療の様子。

時化で数日欠航する」ことが分かっている場合、 まではいかなくとも、 土と比較して厳しい環境に置かれている。 の対応を迫られることもある。 間搬送できないこともある。そのため、 を運航できない。 患者やその家族はもちろん、 天候不良になりやすい冬には、 「今この船に乗らない 粟島の医療提供には 看護師や役場職 緊急を要する症 ٤ この 緊急同様 員も本 限り 日

## 医療 介護サービスの充実が課題

受診とフォロー、 ある。 らしていくためには、 、感染症対策、 一供可能な医療に限りのある島で、 具体的には、 慢性疾患・生活習慣病の予防とコントロ 予防接種の実施、 健康診断受診率の向上、 病気の予防とコントロ なるべ 食中毒予防、 く健 健康 ルル 検診、 診 が 康的に暮 乳幼児 歯科検 大切 断 後 0

弱化) どがあげられ (加齢による虚 フレイル 予防な

ウイルス感染患者搬送訓練の模様。 ため、 専任 保健指導など など生活習慣 健師も不在の な人に対する 残念なこと が不可欠 コントロ 粟島では の常勤保 糖尿病

> が精 種の はいるが、できることは限られており、 とはいえない。 できる専任 て透析が必要になれば、 実施 地域住民全体を長期的 |療所の看護師は、 杯で本土と同レベル などに協力はしているものの、 の常勤保健師 島外 の保健師 感染症対策や健康診断、 粟島 0 確保が求められ かつ総合的に見る の保健予防活動は行なえていな から離れざるを得なくなる。 が月に一 度の割合で来島して その場をこなすの 糖 てい 尿病が重症化 /診ることが 集団予防接

業が実施されているものの、 ンができている。 負担が過大となって島外の施設に入所する、 が運営する通所介護のみであり、 包括支援センター、 い状況が続 人もいる。 すぐに病院へ行けないという不安から本土での生活を望む の介護サービスなどが受けられず、 ョートステイはない。島では、 らしの高齢者も多い。 っていない。 和三年の粟島の高齢化率は四五パーセント 粟島での看取りは、 いているといえる。 介護サービスの不足に加え、 居宅介護支援事業所、 島内の介護に関わる事業所は、 実施回数は少なく夏場は行な なお、 医療と介護の両 介護度が上がっても訪問系 リハビリや訪問介護、 独居または家族の 定期的な介護 社会福祉協議会 というパター で、 面から難 万一の際に 介護 地 域

### 互助の精神が住民の )健康維 持 の

粟島浦村の税収は、 非常に限られている。 予算の 確保も

鍵

介入が十分

効 療 率 物 化 品 など 取 Ō h 組 調 達 L で P 保管 W る 在 庫 を最 小 限 抑 ええる

込まなけ 合でも、 向 脳 にも負 は、 であきらめた」という声もあった。 . き合わ がその役割 つ呼び出 こうしたな 題となっ 歳児から高齢者まで、 担 消 島外 1が大き なけ ればならな 化器 島で看護 7 から の 一 n • n ば 整形・ るか分からず気を抜くことが 部を担わざるを得 看護 る。 0) ならず、 師になろうと考えたが、 移住者は、 い点も課題とな 加えて、 皮膚・ 師 前 述 本土と比 保健 0 急性 保健師 とお 精神などの多種多様 粟島 師 疾患や慢 ŋ などがて な っ べて精神的 介護 0 7 地 人材が 看 11 、状況 護師 V 域 人材 性 性 不在 疾患、 や文 確保 矢 もあ ^でき は 0 的にも肉質 師 島 0 確 化に が る。 ため な症 な できた場 保 循 11 11 が 環器 例に 溶 な 過去 看 体 る 大 11 き け 護 的

Ł

(Iターン) を補 ・ビ診療の 搬送にあたるケースも多々 は外 つは村役場 って 島での 部 専門科 の方 愛託、 1 く必必 が  $\ddot{o}$ 経 Ő 増 多 要 験 職 渍 加など)、 女がある 0 0 員 隔 蓄積 は 化 退 職 粟島出 保 が 泛し みら 健指 などによる人 ジ 導、 タ n 11 一身者よりも ル 不慣 る。 化 服 その にれな職 するなど人材 船指導、 材 ため、 本 0 員 入 土 養指 n が  $\mathcal{O}$ 緊 可 巷 出 急 身 0 能 わ 者 テ n

疾患

の子 後とも

防

ع

1 福

介護と介護予

防

を包

的に

実

矢

療

祉

関 ]

.係者との連携を密にとりながら

するなど、

住 コ

民 ン

0

健 口

康 ル、

0

維

持

向

上

貢

献

7

É 知 存在する。 Η. りだという点であ 0 ように 厳 特 13 L 大きい い現状 る。 では 0 誰 は、 か あ が 住 る 民同 木 が 0 7 士が 粟島 る なら ほ 時 ぼ ぞ Z h は な 0 顏 強

> これら粟島ならではの利点を活 暮らし続 結果につい ることが メンバー ればそれ 野菜などの 結 強みであ 医 療 0) 助 療 所 行 H から つきが P 事 る け は 介 できるため、 が P 護従 6 と て具体的 患者にち お 11 裾 0 強 れ いう互 も同 る島 事者、 個別 分けも日 は 連 み なアド 絡が づくりの じ ゃんと伝 んなで参加するなど地 助 0 家製 な 役 看 問 0 場 常 精 護 題 0 取 0 バ 師 で P n 0) 的 神 笹 わる 鍵になるのでは イスを行なうこと は 情 保 な に行なわれてい が 地 かすことが、 急患者 団子やまんじ 今なお 健 域 報 いときでも、 0) 共 福 (SNSよりも速 (有がし 課 0 祉 題 日 担当者など、 残 常 を ŋ やす 横 本人の望 生 域 ゅう、 活 る。 断 誰 コ 盆 が 的 P ミュニテ 11 かに伝言 踊 健 ٤ V ح だろう できる。 ŋ 赤飯、 くぐら 集まる 把握 など 康診 いう点 む た 限 イ 断 す 0

診

0 島 が

神丸 惣(かみまる そう) 看護師・保健師。1992年 粟島浦村生まれ。新潟県 内の病院の脳外科病棟勤 務後、2016年に粟島へき 地出張診療所へUターン。

大野 充(おおのみつる) 看護師・介護支援専門員。 1969年埼玉県生まれ。長 野県の病院や国境なき医 師団、JICAなどでの海外 勤務を経て、2019年粟島 へき地出張診療所に。